

ファミリーキャンプ2024

活動報告



広島市青少年野外活動センター・こども村

2024/6/18作成

実施概要

【目的】

小学生を含む家族を対象に、豊かな自然の中での野外炊飯やキャンプファイアーなどの機会を提供し、人や自然との出会いを通じて、新たな価値の発見や心の成長を促すことを目的とした事業です。

【定員・応募数】

小学生を含む家族 9家族・57家族

【告知の方法】

- ・市民と市政に掲載（令和6年5月15日号）
- ・青少年野外活動センター・こども村WEBサイトへチラシの掲載
- ・青少年野外活動センター・こども村FACEBOOKへチラシの掲載

【当日のスケジュール】

6月15日(土)		6月16日(日)	
10:00	はじめのつどい	7:00	朝のつどい
10:30	モルック体験	7:30	野外炊飯(カートンドック・ワッフル)
11:30	野外炊飯(素麺)	9:30	小枝クラフト
13:30	火おこし体験	11:00	おわりのつどい
14:30	野外炊飯(すき焼き風煮・燻製)		
18:30	テント設営デモンストレーション		
19:30	キャンプファイアー		
21:00	焼きマシュマロ・花火・入浴		
22:00	就寝		

プログラムについて

■モルック体験 担当 がっくん

(内容)

第3キャンプ場の広場でモルックを体験しました。家族同士で互いに応援しながら50点を目指して、ゲームをしました。子どもたちが「スキttlと呼ばれるピンを起き上がらせたり」・「得点を計算したり」ゲームの運営をサポートしてくれ、スムーズに実施することができました。



■野外炊飯（素麺） 担当：シュガー

(内容)

第3炊飯場でカセットコンロを使って素麺を作りました。活動前に「炊飯で大切にしたいこと」や「炊飯のルール」を簡単に確認しました。初めて包丁を使ったり、親子で錦糸卵を作ったり、子どもたちにとってはチャレンジの連続で、とてもよい体験となりました。



■火おこし体験 担当：みっひー

(内容)

まい切り式火おこし器を使った火おこしをしました。野外炊飯をするために子どもたちが中心となって火を起こしましたが、なかなか火が付きませんが、あきらめずに親子で頑張りました。自分たちで起こした火をランタンに移し、家族で記念写真を撮りました。



■野外炊飯（すき焼き風煮・燻製） 担当：シュガー・いっしー

（内容）

薪を使ってかまどで火を起こし、すき焼き風煮を作りました。材料と炊飯用具の下準備は親子で行いました。ご飯の水加減やかまどの火力に注意しながら炊飯を行いました。同時にサクラのチップを使った燻製作りに挑戦しました。家族ごとに燻製器を使って「ゆで卵」・「チーズ」・「ロングウイナー」・「かまぼこ」の燻製を作りました。



■テント設営デモンストレーション 担当：ならじい

（内容）

キャンプサイトでのテントの設営方法について、組み立てながら説明を行いました。また、テント内で役に立つ照明や便利な調理器具などについても紹介をしました。また、職員手作りのスウェードントーチの点火も行いました。



■キャンプファイアー 担当：タッチー サポート：みっひー

（内容）

キャンプファイアーの流れについて確認し、家族でキャンプファイアーを行いました。家族で簡単なレクリエーションを楽しんだり、他の家族との交流を行ったりしました。夜空や火を眺めたり、心に残る歌を歌ったりもしました。



■野外炊飯（カートンドック・ホットケーキ） 担当：シュガー

（内容）

牛乳パックでホットドックを温めるカートンドックと、ホットケーキミックスを使った型焼きを作りました。型焼きでは「たい焼き」・「ワッフル」・「ホットサンド」などの型を使用しました。

なかには、「ホットサンド」の型を使い、前日に作っておいたおにぎりを「焼きおにぎり」にする家族などもあり、創意工夫の活動となりました。



■小枝クラフト 担当：さむじい

（内容）

小枝を利用したクラフトを行いました。作品テーマは「フリー」としました。「くわがた」や「魚」や「トトロ」など、子どもたちの自由なアイデアで様々な作品ができました。



子どもたちの様子について

■人との関わり方について

1日目は家族内での遊びが目立ちましたが、次第に子どもたち同士で集まって遊ぶ姿が見られるようになりました。「何をして遊ぶか」、「どんなルールにするか」、「どこまでを範囲とするか」などを子どもたちだけで決めて遊んでいました。プログラムの中に子どもたちの積極的な交流を意図していたわけではないにもかかわらず、初対面の年齢の違う子どもたちが集まって遊ぶのはキャンプならではの風景です。

1泊2日の関わりでしたが、子どもたちにとって楽しかった思い出は、心の成長に繋がるのではないかと思います。



■自然との関りについて

子どもたちが「なぜ石を拾うのか?」、そこに石があるからです。子どもたちの好奇心を育てるためには、「子どもたちがやってみたいこと」をある程度見守ってあげる必要があります。子どもたちが小さいうちに、「自然の中でやってみたいこと」の取りこぼしが少なくなるようにしていくと、子どもたちがグングン成長していくと言われています。今回のファミリーキャンプでは、心配な面もあったと思いますが、多くの保護者の方々に、「自然の中で自由に活動する子どもたち」を見守る態度で接していただき、感謝しています。

